

“温故知新、そして、日本一愛される国立公園” に向けた妙高市の取組

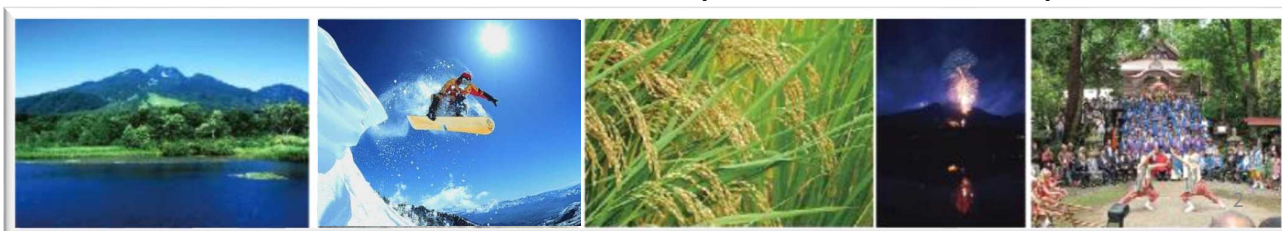
妙高市
環境生活課

1

妙高市の概要



- 平成17年4月1日に「新井市」「妙高高原町」「妙高村」が合併
まちづくりの基本理念は『生命地域の創造』
- 人口は32,507人(H30.11月末現在)
市域の約6割は山林・原野 → 豊かな自然
- 平成27年3月の北陸新幹線開業により、東京～上越妙高駅間が最短で1時間46分
- 平成27年3月に32番目の国立公園「妙高戸隠連山国立公園」が誕生
→ 新潟・長野の県境に位置し、火山と非火山が連なる特徴的なエリア
- 8つの大型スキー場が集積 → 近年は「ディープスノー」「パウダースノー」を求め、豪州をはじめ海外からのスキー客が大幅に増加(H29年冬:35,124人泊)



2. 国立公園妙高の取り組み

- ・平成 23 年 環境省による「国立公園における協働型運営体制の在り方に関する調査：モデル地区に選定される（「箱根」、「志摩」、「妙高」）
- ・平成 24 年 6 月 環境省に対し上信越高原国立公園から「妙高・戸隠地域」の分離を提案
「国立公園 妙高」のロゴマークを作成、観光パンフやポスター、イベント告知用チラシに刷り込むなど、国立公園に関する取り組みをPR
- ・平成 25 年 2 月 「国立公園 妙高」シンポジウムを開催
- ・平成 25 年 5 月 環境省に「妙高戸隠地域」の分離について要望書を提出
- ・平成 26 年 2 月 妙高ビジョンの策定に着手（～H27.8 月）
- ・平成 26 年 4 月 当時の石原環境大臣から分離に関する報道発表
- ・平成 27 年 1 月 中央環境審議会において「妙高戸隠地域」の分離が決定
- ・平成 27 年 3 月 官報告示により「妙高戸隠連山国立公園」が正式に誕生
※北陸新幹線「上越妙高駅」開業とともに二重の歓喜



エコツアー妙高



妙高清掃登山



夏休み親子自然教室



国立公園妙高シンポジウム

妙高戸隠連山国立公園の誕生

- 平成 27 年 3 月に 32 番目の国立公園として誕生。新潟県と長野県の県境に位置し、糸魚川市、妙高市、長野市、小谷村、信濃町、飯綱町と 2 県 6 市町村にまたがっている
- 面積は 39,772ha と小さいながらも個性的な山容の山々が密集し、山麓に点在する高原や、野尻湖などの湖沼が一体となった独特の景観が大きな魅力である。
- 火山性連峰やカルデラ、非火山性の孤峰、連峰など山の成り立ちは様々。妙高山、火打山、高妻山の 3 つの日本百名山を有するほか、飯縄山など初心者が楽しめる山から急峻な戸隠連峰など、登山フィールドとして高い人気を誇る。
- 麓の高原では夏季は自然探勝、冬季はスキー、年間を通して温泉利用が盛んであるなど多様な利用者が訪れる。
- 本国立公園は豪雪地域でもあり、厳しくも素晴らしい自然の営みと、そこから恵みを受けた独自の文化や 山岳信仰が相まって、独特の風景が作られてきた。



妙高戸隠連山国立公園のビジョン

◆基本理念

“温故知新、そして、日本一愛される国立公園へ”

□魅力

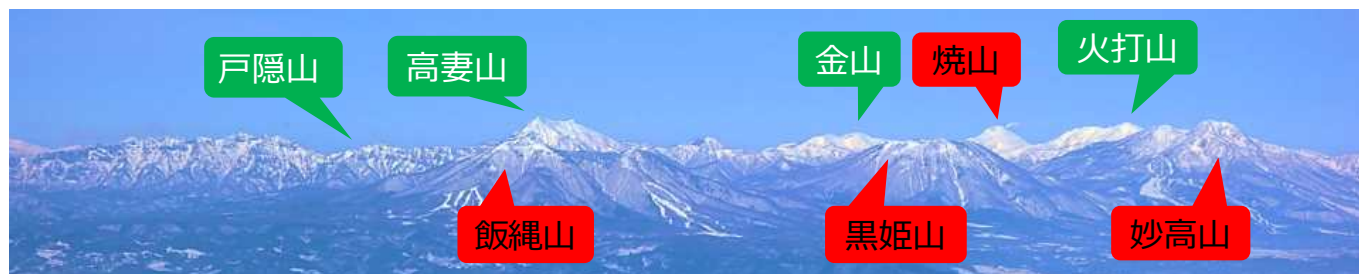
「山岳信仰と人々の暮らしが息づく、一目五山の風景」

□役割

「色鮮やかな自然があり続け、日本一の“自然×文化”の
遊学舎（まなびや）であること」

□保全・利用目標

「先人が築き守ってきた自然と文化を、
私たちが自信をもって子どもたちに引き継ぐこと」



妙高戸隠連山国立公園の管理運営方針

◆管理運営方針の概要

- ①北限のライチョウをはじめ、豊かな生物多様性保全の取組をすすめます。
- ②妙高戸隠連山国立公園らしい風致景観保全の取組を進めます。
- ③登山を活性化させる取組をすすめます。
- ④自然や文化で遊び・学ぶ体験活動を活性化させる取組をすすめます。
- ⑤癒やしの場となるような取組をすすめます。
- ⑥「世界に誇れる観光地」となるよう、
観光地としての資質を高める取組をすすめます。
- ⑦地域ぐるみで積極的に情報発信し、
「妙高戸隠連山国立公園ファン」を増やす取組をすすめます。
- ⑧「故郷ふるさと、妙高戸隠連山国立公園」となるような取組をすすめます。
- ⑨協働による取組をすすめます。

国立公園の**保全**に対する取組

◆生物多様性の保全

◆目的

- 市民・研究者・行政が一体となって保全活動を推進
- 生物多様性を保全し、かつ適切な利用の推進

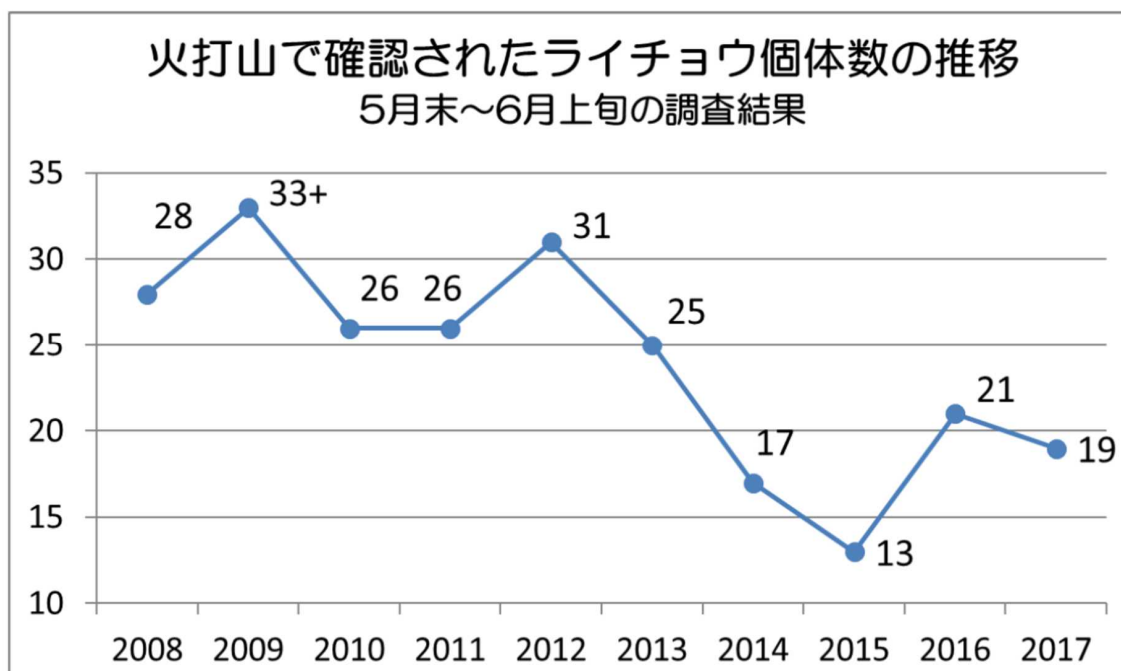


7

火打山におけるライチョウ保全の取り組み

◆問題

- ライチョウ（絶滅危惧種 I B）の生息数の減少



8

火打山におけるライチョウ保全の取り組み

◆課題

- ライチョウ生息数の減少に対しての
有効な取り組みの検討が不十分

◆解決に向けて

- 環境省、妙高市、有識者での検討
- 妙高市環境会議（H28.5 発足）



ライチョウ保護に向けた取組年表



火打山協働型環境保全活動（イネ科植物除去活動）

◆ライチョウ減少要因の検討

- 火打山周辺においては、ニホンライチョウの餌となる植物の消失など、最近30～40年ほどで大きな植生の変化が生じていることが指摘された。

⇒ 2016年と1984年との32年間における植生の変化について比較検討を行った。

（環境省信越自然環境事務所・新潟県生態研究会）



11

火打山協働型環境保全活動（イネ科植物除去活動）

◆結果

- 1984年と比較して植物群落の高さや生育密度が高くなるとともに、生育する植物の種類も変化が認められ、30年程度で火打山山頂周辺の植生が大きく変化していることが判明した。
- ニホンライチョウの餌場となる矮性低木群落においても、イネ科植物が優占して、餌となる矮性低木等の植物が消失している可能性が示唆された。

◆対応

- ニホンライチョウの餌となる植物を保全するため、イネ科植物の除去に関係者間で取り組むこととした。

12

ライチョウ保全を協働で行うメリット

◆将来像の共通認識

○「ライチョウ」がいつまでも棲み続けられる環境の保全を目指す。

◆役割分担の明確化

○専門的な見識からの保全活動・調査

・生態調査、イネ科植物除去活動（環境省）

・国有林野におけるニホンジカGPS調査（林野庁）

○市民への普及啓発・市民参加型の保全活動へ（妙高市・新潟県）

◆全国に発信→支援の輪の拡大

○ライチョウ会議新潟妙高大会

○クラウドファンディング

◆予算確保

○ストーリー性のある事業展開により
予算を確保



13

火打山におけるライチョウ保全の取り組み



14

(1) 良好な景観形成

(2) 国立公園に関する情報発信

(3) ロングトレイルの設置

15

(1) 良好な景観形成

◆目的

- 国立公園への来訪者を増やし、地域活性化を推進するには、その国立公園ならではの景観を適切に維持、保全する必要がある。
- 妙高戸隠連山国立公園内の良好な景観、街並みを形成することで、来訪者が増え、宿泊施設やお土産等の販売など地域への好影響が期待できるが、良好な景観形成による地域活性化を図るには、地元地域住民の景観に対する意識を高める必要がある。

⇒ 地元関係者や行政関係者を対象として、12月に

「良好な景観づくり勉強会 in 赤倉温泉」を開催した。

16

勉強会について



◆勉強会について

- 地元住民以外にも、妙高市を含めた関係市町村の行政関係者等も参加し、講師の方から、全国各地の温泉地の事例をもとに、特に旅行者が街並みに対しての評価を決定づける要因についてのお話や、まちづくりにおける道路の重要性、滞留拠点の整備の効果など貴重なお話をいただいた。

17

景観づくり勉強会



◆今後の展開

- 勉強会を踏まえ、まずはできることから地域の皆さんや観光団体、行政機関など連携して取り組みたい。

18

(2) 国立公園に関する情報発信

◆目的

- 国内外へ国立公園の存在や魅力を発信し、各種取組に係る情報発信の施行を進めるとともに、誘客を図る。
- 長期的には1つの観光圏としてエコツアーを中心とした長期滞在や、周遊利用がなされている状態を目指す。

⇒ 妙高戸隠連山国立公園のビジョンである「山岳信仰と人々の暮らし息づく、一目五山の風景」の周知と、良好な眺望地点を発掘するため

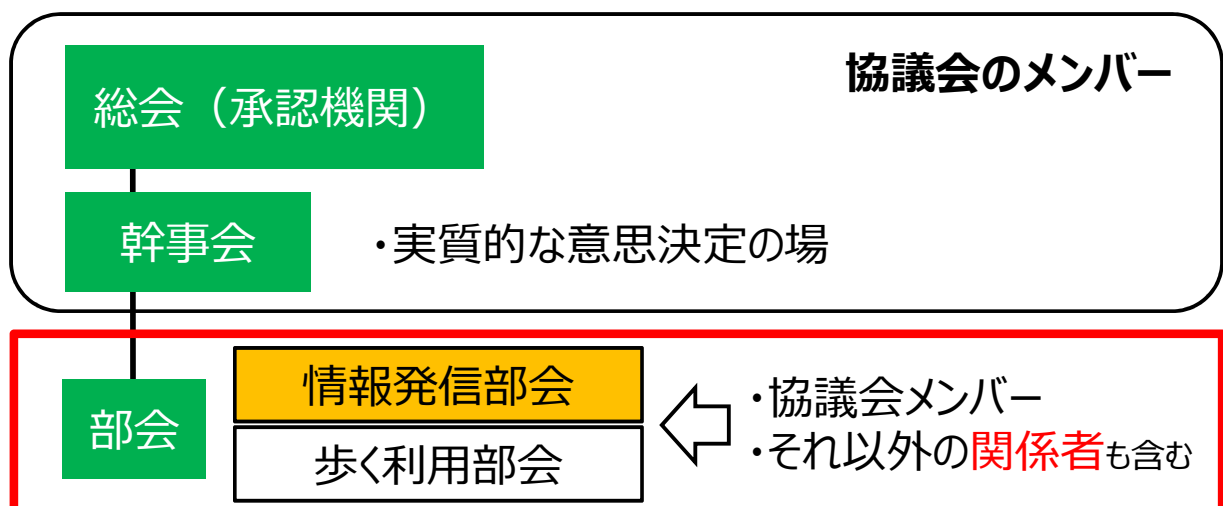
「一目五山の絶景32選発掘フォトコンテスト」を開催した。

19

取り組みの体制

◆体制

- 「一目五山の絶景32選」は情報発信部会において検討
- 関係市町村の観光協会、行政関係者、有識者などの関係者が集まり、32選の考え方の整理や写真の選定、発信の方法などの検討を行った。



20

「一目五山の絶景32選」

◆ 結果

- 農業などの人々の営みを含む地域の風景を鮮やかにとらえたものから、毎日の散歩途中の風景、あまり知れていない場所からの風景など非常に優れた作品が数多く集まった。



「一目五山の絶景32選」

◆ 取り組みへの期待

- 近年、登山やトレッキングなどのブームもあり、山を楽しむ方が非常に多い状況にあるが、登山については百名山というだけでは、人は来ないといわれている。
- そのような中で、このような良好な眺望ポイント発掘などの取り組みは、登山やトレッキングの楽しみ方の一つとして、また写真を楽しむ人にもPRすることができ、国立公園の新たな魅力創出につながると考えている。
- 今後も、選定されたスポットを広く紹介するなど、観光誘客への活用を図るとともに、観光事業者が中心となり、外国人を含めた多様な観光客のニーズに対応できる新たな旅行商品の企画につながることに期待している。

(3) ロングトレイルの設置

◆目的

- 妙高戸隠連山国立公園の各地域をまたぎ、それぞれの地域が連携して、地域への滞在時間の延長、広域的な周遊利用の増加、インバウンドの増加等を目指す。

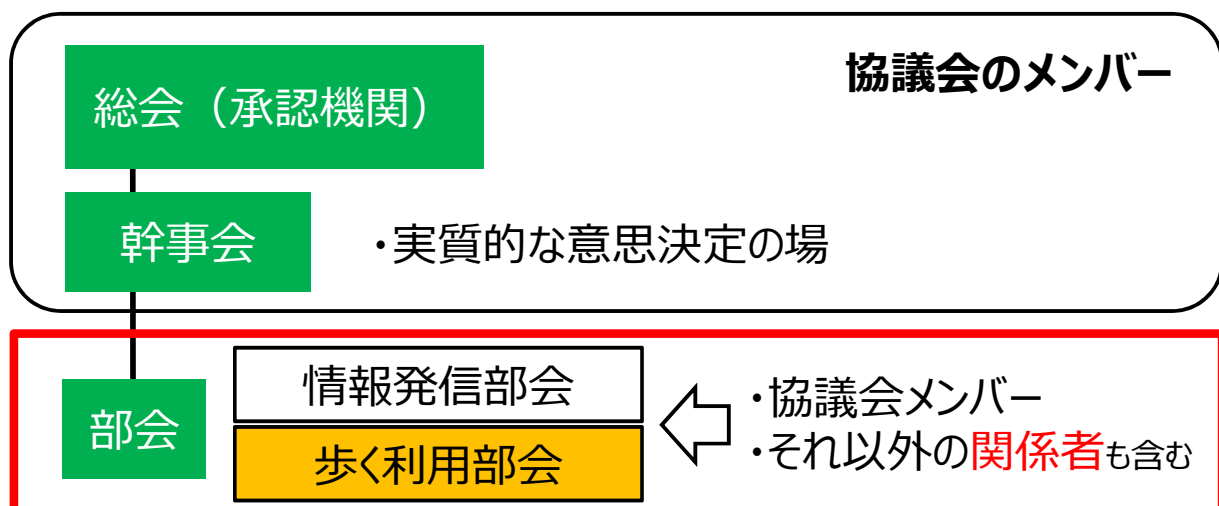


23

取り組みの体制

◆体制

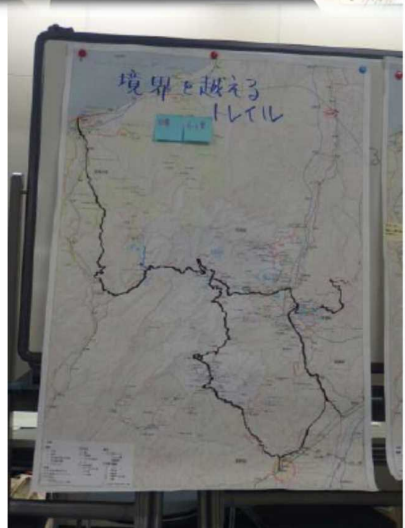
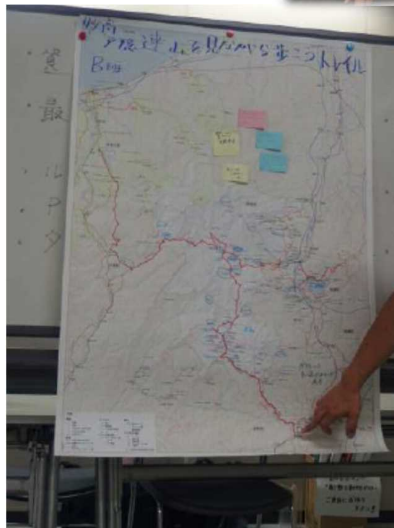
- ロングトレイルは歩く部会において検討
- 関係市町村の観光協会や行政関係者、有識者に加え、登山ガイド、博物展示施設職員など多様な関係者が集まり、ルートを選定や維持管理の手法などについて検討している。



24

ルートの検討

- ◆ワークショップによる検討
- 妙高戸隠連山国立公園を
T字に通るルートが提案された



25

「ロングトレイルのルート（案）」

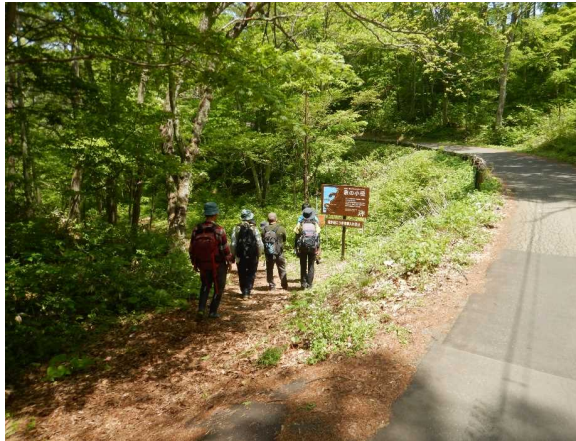


26

ルートの踏査

◆ 踏査の実施

- 関係者が集まり、実際にルート歩き確認を行う



27

ルートの確定

◆ ルートの確定

- 踏査後、再度ルートについて関係者間で検討を行い、コースの一部を確定した。



28

ロングトレイルへの期待と課題

◆ ロングトレイルへの期待

- 健康や自然志向へのライフスタイルへの関心が高まる中で、人々のニーズは単に「歩く」ことから、「歩く旅」へと変遷している。
- 自然環境の適正利用による観光活性化を目標とするロングトレイルは、観光地域づくりを推進している妙高市にとって取り組みの意義は大きく、期待しているところである。

◆ 今後の課題

- ロングトレイルは愛好者を中心に利用者の増加が見込まれる一方、ルートの特長が長く、安全、快適に利用するには非常に大きな労力を要することや、また行政区を複数跨ぐことから、しっかりとした維持管理体制を築くことが、設置後の大きな課題と認識している。
- これらの課題を解決していくためには、関係者が参画し協働により保全、活用を促進する、協働型協議会が必要不可欠であり、引き続き、協議会を主体として取り組みを進めるなかで、妙高市として責任を果たしていきたい。

29

協働型の運営によるメリット

◆ 発信力強化

- 様々な主体による情報発信

◆ 顔の見える関係の形成

- 様々な問題・課題についての議論や経験の蓄積と継承

◆ 人と人との繋がりによってネットワークが構築

- 行政間だけではなく、専門家や民間など国立公園の保全や活用などに関わる様々な主体が複合的に連携



目指すべきところ ⇒ 相乗的な効果によるエコツーリズムの推進

- ◆ 今後も国立公園運営のまとめ役となる協議会を中心に、様々な取り組みを通じて国立公園の活用しながら、交流人口の増加を図り地域活性化につなげていきたい。

30